

表紙（表題，所属，著者名など；英文併記）

希望する原稿の種類：原著

別刷必要部数：50部

表題：学校での性教育において性的マイノリティが得る経験に関する研究
—異性愛主義と性的マイノリティの不在性の視点から—

A Study of the Experiences of Sexual Minorities in Sex Education at School

原稿枚数：27枚（表紙除く）

図表および写真の枚数：4枚

著者名：和田真理絵¹⁾，伊藤武彦²⁾

Marie Wada¹⁾，Takehiko Ito²⁾

所属機関名および所在地：

1) 岡山大学大学院教育学研究科 修士課程

Graduate School of Education (Master's Course), Okayama University, Okayama

2) 岡山大学大学院教育学研究科

Graduate School of Education, Okayama University, Okayama

抄録（400 字以内）

本研究は、学校での性教育において性的マイノリティが得る経験を明らかにし、異性愛を前提とした性教育が性的マイノリティにもたらす影響と抱える課題の 2 つについて検討することを目的とした。性的マイノリティ 9 名を対象にしたインタビュー調査の結果、経験は「異性愛を前提にした性教育を受ける」「異性愛が前提であることへの疑問や批判をもつ」「異性愛が前提であることを受け入れる」「意図せぬカミングアウトを迫られる」「将来の自分の姿が想像つかない」「周囲とは違う存在であることを自覚する」「性的マイノリティについて学ぶ」の 7 つに整理された。性的マイノリティは、性教育で直面するさまざまな困難に試行錯誤のもと対処しながら学校教育以外の場や機会で自分に必要な情報を集め、自主学習の形で性の学習を行うという厳しい状況に置かれることが示唆された。様々なセクシュアリティの学習者の存在を想定した性教育の実現が求められる。

キーワード（英語で 5 個以内）

School-based Sexuality education, Sexual minority, Heterosexism

緒言（研究の目的・背景）

学校における性教育は、児童生徒の人格の完成を目指す教育の一つであり、性に関する知識の理解や生命の尊重、自己及び他者の個性の尊重、望ましい人間関係の構築など、適切な行動を取ることができるようにすることを目的に、人間尊重の精神に基づいて行われる¹⁾。

性教育が実施される主な機会の一つに保健体育科が挙げられる。学習指導要領解説 体育編および保健体育編には「異性への関心」に関する記述^{2,3)}があることから、保健体育科をはじめ学校教育で実施される性教育は異性愛を前提としているといった異性愛主義（異性愛を“自然”なものと捉えてそれを規範化し、中心化する思想⁴⁾）に関する指摘がされている⁵⁾。日高は、2014 年にゲイ・バイセクシュアル男性を対象に行った調査にて、学校で同性愛について「一切習っていない」者と「異常なもの」として教えられた者、「否定的情報」を得た者を合わせると全体では 87.1%、10 代では 70.7%になることを報告している⁶⁾。また、2017 年に実施された第 8 回青少年の性行動全国調査では、学校の性教育で性的マイノリティについて学習した中学生や高校生の割合は 2 割から 3 割程度であることを報告している⁷⁾。このことから、依然として学校では多様な性を学習する機会が少ないことが伺え、多くの性的マイノリティの児童生徒は学校教育において自身の性について適切に学習することができていないと考えられる。

性的マイノリティを対象とした調査研究において、性教育で性的マイノリティが得る経験について調査した諸外国の研究では、性教育ではセクシュアリティをはじめ、性感染症予防や親密な関係、結婚、家族に関する内容が異性愛に焦点を当てた内容になっており、LGBTQ に関する話題が取り上げられなかったり、HIV やエイズと関連づけて取り上げられたりすることが報告されている⁸⁻¹³⁾。また、彼らは自身の性に関する情報をインターネットやテレビ、映画、書籍といったメディアから得ていることが報告されている^{10,11,13)}。国内の研究では、性的マイノリティについての基本的な知識やロールモデルの提示、差別の禁止などに関する学習ニーズを持っていることを岩田ら¹⁴⁾が報告している。杉山は、学校での情報入手の困難を指摘している¹⁵⁾。また、支援団体や自助グループが困難に直面した事例を調査している^{16,17)}。

このように、性教育において性的マイノリティが得る経験の実態に関する研究はこれまでにいくつか行われてきたが、諸外国での研究が主である。国内においては先行研究が非常に少なく、性的マイノリティの経験は断片的にしか明らかにされていない。また、性教育の異性愛主義に関連する指摘は、主に「異性への関心」に関する学習内容に集中しており、性感染症予防や結婚生活、家族形成といった対人関係や性的関係の要素が大きく関わる学習内容を含めたうえで性的マイノリティが得る経験を明らかにし、異性愛に基づいた性教育が抱える課題を検討した研究は国内においてなされていない。

そこで本研究では、学校での性教育において性的マイノリティが得る経験を明らかにし、その結果を通して、異性愛を前提とした性教育が性的マイノリティにもたらす影響と抱える課題の 2

つについて検討することを目的とする。その際、異性愛主義および性的マイノリティの不在性の視点から検討を行う。

用語の定義

(1) セクシュアリティ (sexuality) : 生涯を通じて人間であることの中心的側面をなし、生物学的性別、性自認とジェンダー役割、性的指向、親密さ、生殖などが含まれ、構成されるもの。思考、想像、行動、実践および関係性などによって経験され、表現される¹⁸⁾。

(2) 性的マイノリティ (sexual minority) : 性別違和が無く異性愛であるというセクシュアリティのあり方に当てはまらない人々を指し、同性愛者、両性愛者、トランスジェンダーなどが含まれる。社会において、性別違和が無く異性愛である人々と比べると数が少ないことから、少数派に位置づけられている¹⁹⁾。日本語訳として、セクシュアルマイノリティ、性的マイノリティ、性的少数者などがある。本研究では、性的マイノリティと表記する。

研究方法（研究・調査・実験・解析に関する手法の記述、対象の選択）

1. 調査方法

本研究の調査は、性的マイノリティを対象に半構造化インタビューを実施した。本研究における調査協力者は、自分のセクシュアリティとして同性愛や両性愛、トランスジェンダーを自認する性的マイノリティ 9 名である。知人等の紹介に頼って調査対象者を集める方法である機縁法によって調査協力者を集め、研究の趣旨を理解してもらったうえで調査協力を依頼した。調査協力者の基本的属性は表 1 のとおりである。面接時間は 1 回約 60 分を目安に実施した。研究の趣旨およびインタビューの実施を事前に説明し、同意を得たうえでインタビューを実施した。また、インタビュー中は許可を得て IC レコーダーで録音した。調査期間は 2020 年 9 月から 11 月および 2021 年 9 月から 10 月である。

★ここに表 1 を挿入する

2. 調査内容

本研究では、異性愛を前提とした性教育が性的マイノリティに与える影響について検討することを目的とすることから、調査協力者には、性教育で学ぶ学習内容のうち、セクシュアリティが大きく関わる内容である『異性への関心』、『性感染症・エイズとその予防』、『結婚生活・家族計画』の 3 つに関して聞き取りを行った。

インタビューでは、学校で受けた性教育を振り返ったうえで、①自分のセクシュアリティ、②性教育の授業で学んだ内容、③学んだ内容と自分自身の関連性、④意見や考えを表現する機会の有無、⑤性に関して知りたい情報の入手方法、⑥思い描いた将来の自分像、⑦性教育を受けた経験に対する意味づけの 7 項目について、インタビューガイドをもとに自由に語ってもらい、柔軟に聞き取りを行った。

3. 分析方法

分析は次の手順で行った。各インタビュー終了後に逐語録を作成した。逐語録を読み、それぞれの語りから浮かび上がってきた複数の類似点を中心に定性的コーディング（佐藤 2008）²⁰⁾によって分析を行った。調査協力者から得られた語りの内容が多岐にわたったため、まず、オープン・コーディングを行い、データ自体のなかからコードを立ち上げさせた。次に、コードについて文書セグメントを参照して複数事例の比較を行い、割り当てたコードの妥当性について検証した。コードはさらに類似性や共通性によって集約していき、カテゴリーを形成した。そして、同様にカテゴリーを集約していき、帰納的に概念化を行った。また、反証事例による検証を併せて行った。分析の際には、オリジナルの逐語録の全体的文脈と文書セグメント、コードを相互に立ち帰って妥当性のある分析を行うことに努めた。

4. 倫理的配慮

本研究の調査は、岡山大学大学院教育学研究科研究倫理委員会の承認を得て実施した。調査協力者に研究の趣旨および方法、研究参加は自由意志であること、プライバシーの保護と権利を尊重すること、修士論文および学術誌への論文投稿によって研究成果を公表すること、アウティングの防止に努めることについて書面および口頭で説明を行い、同意を得て実施した。聞き取り内容は、個人が特定できないように個人情報に関しては匿名化して取り扱った。

研究結果（調査・研究の結果）

1 回のインタビュー時間は約 60～90 分であった。インタビューの途中で参加を取りやめた調査協力者はいなかった。逐語録の分析の結果、7 つのカテゴリーと 19 のサブカテゴリーが生成された。調査協力者から得た語りの中には、1 つの話題についての語りの中に複数のカテゴリーが見出されるものもあった。分析結果を表 2 に示す。以下、研究結果をカテゴリーごとに述べる。

★ここに表 2 を挿入する

カテゴリー1. 異性愛を前提にした性教育を受ける

学校では学習内容が異性愛を前提にした性教育を受けていた。性教育を受けた機会としては、保健体育科をはじめ、家庭科や道徳の授業、全校集会、外部講師による講演会が挙げられた。思春期における性的関心の高まりをはじめ、性感染症・エイズとその予防や、結婚や家族形成といったライフイベントやライフプランが異性間をモデルにして取り扱われており、異性愛を前提にした内容で性の発達や健康について学習していた。性教育の内容は自分には関係ないと捉えており、学校では知りたい情報が得られないと感じていた。SNS を含むインターネット、書籍、漫画、当事者交流会、アダルトビデオなどの代替手段を用いて性について情報収集を行っていた。入手する情報には、性的指向や性自認などセクシュアリティに関する情報、同性愛者やトランスジェンダーなど性的マイノリティに関する情報、性的マイノリティのライフプランや同性婚に関する情報、同性との恋愛や性的マイノリティの日常生活全般に関するロールモデル、女性間における性感染症予防、性転換に関する情報があつた。

カテゴリー2. 異性愛が前提であることへの疑問と批判を持つ

性教育の内容が全体にわたって異性愛を前提にしていることを捉えていた。相手の尊重や対等な人間関係の構築、性感染症の予防といった内容は異性間と同性間の両方に適用可能であるにもかかわらず、異性愛のみが前提とされていたり、性的マイノリティのロールモデルが提示されていなかったりしたことを指摘していた。異性愛を全面的に押し出す内容に対して、怒りや反発心といった感情や社会からの押し付けをも感じていた。

カテゴリー3. 異性愛が前提であることを受け入れる

同性愛やトランスジェンダー、性的マイノリティについてまだ知らなかった頃や、自分を異性愛者だと思っていた時に受けた性教育では、異性愛が前提となっている学習内容について疑問や批判を持つことは無く、学習内容をそのまま受け止めていた。性的マイノリティについて知ったり、自分のセクシュアリティに気づいたりしたあとも、社会では異性愛が多数派とされていることから授業が異性愛を標準としていることについて納得をしていた。

カテゴリー4. 意図せぬカミングアウトを迫られる

調査協力者の半数は、家庭科の授業での学習活動や保健体育科の定期試験にてライフプランに関する考えをプリントに記入し、教員に提出するという経験があつた。具体的には、自分で将来のライフプランを設計し、プリントに記入して提出する活動や、理想の結婚生活について定期試験の回答用紙に記入する機会があつた。うち A さんと D さんは、自分の考えを表現する学習

活動を望まないカミングアウトを求められる機会として捉えていた。Aさんは、自分のセクシュアリティに即して考えを記入していた。反対に、Dさんはセクシュアリティの開示を避けるために異性愛に基づいた考えを記入していた。

カテゴリー5. 将来の自分の姿が想像つかない

結婚や家族計画に関する授業ではパートナーと生活を築く将来の自分について考える機会があったが、ロールモデルが提示されていないために将来を思い描くこと自体が難しいと感じていた。調査協力者の大半が一人で生きていくことを想像しており、明確に想像できる将来像としては仕事をしている自分を挙げていた。また、将来を思い描いたとしても、結婚制度から排除されていたり、社会において様々な制約が潜んでいたりすることから、自分が望むライフプランを実現することが困難であることに気づかされていた。一部の調査協力者は、家族形成に関して自分は子どもを産んだり育てたりすることは無いと考えていたり、養子を引き取って育てたりしたいと考えていた。

カテゴリー6. 周囲とは違う存在であることを自覚する

一部の調査協力者にとって、多数派とされる異性愛者を学習者に想定している性教育を受けたことが、自分が性的マイノリティであるという自認を持つきっかけになっていた。同級生たちはマジョリティに該当するシスジェンダーの異性愛者で、自分だけが性的マイノリティであるという感覚を持ったり、自分自身を肯定的に受け止めることができずにいたりした。中には、学校卒業後に自分のセクシュアリティに気づき、学校で学んだこととの違いから苦しい思いを持った調査協力者もいた。

カテゴリー7. 性的マイノリティについて学ぶ

一部の調査協力者は、保健体育科の授業での調べ学習、外部講師による講演会、家庭科の授業などで性的マイノリティについて学ぶ機会があった。周囲の同級生は理解のある態度を示しており、受容的な雰囲気をつかっていた。しかし、それとは対照的に、周囲が性的マイノリティについて知ることによって、自分のセクシュアリティが周囲に勘づかれたり、自身の挙動がきっかけで性的マイノリティであると一方的にみなされたりすることへの恐れを同時に感じていた。

保健体育科の授業では、エイズの問題においてゲイや男性同士の性行為が取り上げられたときに嘲笑や差別的言動を見聞きすることがあった。

結果（結果の考察および展望）

本研究の結果から、異性愛を前提とした性教育が性的マイノリティにもたらす影響と抱える課題についてそれぞれ考察する。

1. 異性愛に内包される性的マイノリティのセクシュアリティ

調査協力者たちが受けた性教育は異性愛や異性間をモデルにして学習内容を提示しており、性的マイノリティのセクシュアリティや、同性間における性感染症・エイズとその予防、長期的な関係の構築に関する内容は省かれていた。

調査協力者たちは性教育に対して疑問や批判を抱き、自分には関係のない学びとして実用性を見出せずにいた。性教育は役に立たないと思いつつも性に関する知識を持つことは大切だと認識しており、性教育で得られなかった情報を手に入れるためにSNSを含むインターネットをはじめとする様々な道具や機会を性の情報源として活用し、学校教育以外の場や機会において自力で学んでいた。

本研究で得られた調査協力者の語りから、異性愛に基づいた性教育は自身の性とその健康を学ぶ機会の損失を性的マイノリティにもたらしており、彼らの自助努力によって損失を埋め合わせているということがわかった。この点については、諸外国での先行研究^{9-11,13)}と同様の結果が得られたと考える。

調査協力者たちは性教育で学べなかったこととして、自身のセクシュアリティや特定の相手との親密な関係についてだけでなく、性感染症・エイズの予防方法や感染につながる性的行動、結婚やパートナーシップを含む長期の関係性の構築、親になることについても言及していた。多様な性を取り扱わず、本来全ての児童生徒に関係する学習内容を異性愛に基づいて提示することが、性的マイノリティの若者の経験を取り込まない学習内容につながり、結果として性的マイノリティにとって性教育で学ぶ内容は自分には関係ないと判断するきっかけになったと言える。調査協力者の中には学習内容に対して感情鈍麻や割り切りなどを行っている様子も見られ、無意識のうちにストレスコーピングを行っていることが伺えた。

調査協力者たちは将来の自分の姿を想像することが難しいと語っていた。中には、性教育で性的マイノリティについて学ぶ機会があった者もいたが授業で学んだことは自己イメージの形成やロールモデルの獲得には結びつかず、SNS でそれらを得ることができたと語っていた。性的マイノリティは学校教育のなかでロールモデルを得にくく¹⁶⁾、同性愛者や両性愛者、トランスジェンダーなどとしての自分の姿が想像しにくいことが、現在や将来についての自己イメージの形成の難しさにつながっていると考えられる。

性教育を実施することは、子どもたちの性に関する知識の増加や自己効力感の向上だけでなく、初交年齢を遅らせ、性と生殖に関する健康に関して適切な意思決定や行動選択を促進することがわかっている²¹⁾。若者の性的活動は高校卒業後に本格的に活発化する^{7,22)}ため、性的行動が本格的に活発になる前にあたる学校教育の段階で性教育を実施することが望ましいとされる。一部の調査協力者は性教育で学べて良かった内容として、性的マイノリティについてと、生理や生命の誕生に関することを挙げていた。しかし、調査協力者たちは総じて学校での性教育において知りたいことを十分に学べなかったと感じており、主に高校卒業後になってから性に関わる様々な情報を収集するようになっていた。このことから、性的マイノリティの若者は自身のセクシュアリティに即した性に関する知識と情報を十分に得ることができていないまま性的活動を開始している可能性が考えられる。

2. セクシュアリティの否定と表現の抑制

一部の調査協力者は、エイズを扱う授業においてゲイや男性間性行为に対する嘲笑や差別的言動を見聞きしており、学校での性教育は同性愛に対する偏見や嫌悪的感情をじかに見る機会になっていた。杉山は、異性愛主義は同性愛嫌悪によって補完されており、学校では授業中に教員が冗談として同性愛者をからかったり、児童生徒の嫌悪的反応を黙認したりすることによって異性愛主義の意識を互いに支持しあっていると指摘している¹⁵⁾。嫌悪的反応が放置されたまま行われる性教育は、性的マイノリティにとって間接的に自身のセクシュアリティを否定される機会になるとともに、彼らを異性愛主義の再生産に貢献させてしまう状況に巻き込んでいけると言える。

また、性教育の授業にて取り入れられた学習活動が、自らのセクシュアリティ表現を抑制し、異性愛者の振る舞いを実践する機会になっていた。性的マイノリティに課せられる異性愛者の役割演技は、自らの性的指向やその欲求を抑圧することから彼らにストレスを与え、さまざまな葛藤や苦痛を引き起こすことになる²³⁾。異性愛が規範となっている²⁴⁾なかで性的マイノリティとしての自己を表現することはカミングアウトとしての意味を含み、偏見や嫌悪的感情にさらされることにもつながる。性的マイノリティは異性愛者の役割演技を求められているだけでなく、自身の身を偏見や嫌悪的感情から守るためにも異性愛者に扮した振る舞いを日常的に行わざるを得ない状況にあると言える。

性的マイノリティにとって自身のセクシュアリティ表現が著しく困難な状況がある中で、性教育において記述や話し合いといったセクシュアリティの開示を暗に伴う可能性のある学習活動は、テーマや設問次第では性的マイノリティの児童生徒にとって、学習活動に参加するために異性愛者を装うことと、不測の事態を回避するため学習参加から離脱し傍観すること、カミングアウトにつながる覚悟のもと異性愛者を装わずに学習活動に参加することのいずれかの選択を迫る機会として機能していることが考えられる。

このように、異性愛主義を背景にした性教育は、自らのセクシュアリティに気づきアイデンティティを確立させる時期にある性的マイノリティの児童生徒に対して、異性愛主義の内面化と

異性愛を規範とする社会への適応を求めていると考える。そして、性教育が性的マイノリティの児童生徒にとって、異性愛を中心とした社会に適応し、偏見や差別から自分の身を守りながら生きていくための处世術を身に付け実践する場として機能していることが考えられる。

3. 異性愛に基づく性教育が抱える課題

文部科学省が2015年に通知「性同一性障害に係る児童生徒に対するきめ細かな対応の実施等について」²⁵⁾を発出し、2016年に教職員用周知資料「性同一性障害や性的指向・性自認に係る、児童生徒に対するきめ細かな対応等の実施について（教職員向け）」²⁶⁾を発表したことを機に、人権教育や性教育に位置付けて性の多様性に関する授業を行う学校が少しずつ増えてきている⁷⁾。しかし、新学習指導要領は改訂時に多様なセクシュアリティを性教育の学習内容として含むことの必要性が指摘されていたが、「異性への関心」についての記述はそのまま引き継がれた^{27, 28)}。その代わりとして、総則において「個々の児童生徒の多様な実態を踏まえ、一人一人が抱える課題に個別に対応した指導を行うカウンセリング」を行うことが規定された²⁹⁾。Gowen は、性的マイノリティの若者が同性愛に関する質問を教員にしたところ、忌避や消極的、否定的な態度を取られた経験があることを報告している⁹⁾。個別に対応した指導を受けるには様々な困難に対処しながら自ら指導を求めに行かなければならず、性的マイノリティの児童生徒に大きな負担を課すことが予想される。また、文部科学省は性的マイノリティに関する指導の実施は教員の適切な指導の確保が難しいと考えており²⁹⁾、教員が持っている性知識も異性愛に基づいていることが予想されるため、個別対応によって求める情報が必ず得られるという保障はない。異性愛を前提とした性教育を行う限りでは、性的マイノリティの児童生徒にとって自分のセクシュアリティや性の健康が学べないという状況は改善されないと考える。

さらに、今後の学校現場では主体的・対話的で深い学びが推進され、性教育にもアクティブラーニングを取り入れた授業改善が行われると見込まれる。異性愛主義が根強い現状で、異性愛を前提とした性教育での学習活動に主体性を持って参加するためには、異性愛を基点とした考えを持ち、異性愛者として振る舞うことが暗黙のうちに求められていると言える。性教育において自己開示や自己イメージなどに困難があるなかで、性的マイノリティの児童生徒は主体的な学びや、学級やグループの中での協働的な学びにおいて“見えない孤立”に直面する可能性があると考えられる。

現在、性教育に対して子どもたちを取り巻く現実や発達要求に応える内容になっていないという指摘がされており、内容や機会の充実化の必要性が挙げられている²¹⁾。しかし、性教育は学習者である子どもたちを異性愛者と想定しているために性的マイノリティの子どもたちを取り巻く現実を捉えきれておらず、彼らの要求に応えたりすることができていないと考える。同性愛や性同一性障害という言葉の意味を知ったり、自身の性的指向や性自認をはっきり自覚したりするといった思春期の性的マイノリティ特有のライフイベントは主に中学生から高校生の間に集中して生じている^{17, 22, 30)}。学校における性教育では彼らのニーズに応え、科学的に正確で、かつ肯定的な情報を提供することが必要である。

セクシュアリティや性の健康に関する情報を入手したり、包括的な性教育を受けたりすることは性の権利¹⁸⁾として保障されている。学校教育における性的マイノリティの児童生徒の学習機会や性の権利を保障するためにも、セクシュアリティに関する学習内容だけでなく、性感染症・エイズ予防と性的行動や結婚を含む長期の関係性の構築、家族の形などに関する内容や学習活動のあり方を含め、性教育全体にわたって性の多様性の観点から学習内容とその提示の仕方を見直す必要がある。

性教育では、性的指向やジェンダーアイデンティティについては多様性があることを提示し、人間の健康にかかわることを明示すべきである。同時に、性の多様性に関する話題を取り上げ、自分とは異なる他者を尊重することの重要性を伝え、互いに尊重し合う態度を醸成することも必要である。性感染症やエイズとその予防については、異性間の性行為を例にとるだけでなく、同性間についても含めるのが望ましい。結婚や家族については、結婚だけでなく、パートナーシップをはじめとした長期の関係性や様々な家族の形があることも併せて取り上げ、すべての人が結婚、長期の関係性の構築、親になることについて自身の意思に基づいて決定できることを示すべきである。

提示の仕方については、異性間や同性間など複数の文脈を取り入れ、あらゆる形態の人間関係や多様なセクシュアリティに重ね合わせることができる形で学習内容を提示することが望ましい。そうすることで、すべての児童生徒が自身のこれまでの経験や取りうる性的行動に見合う内容として性について学ぶことができるようになるを考える。また、学校卒業後に自分のセクシュアリティを自認することになる性的マイノリティにとっても、学校における性教育で得た学びが活きるようになるを考える。

研究の限界と今後の課題

本研究の調査協力者にはシスジェンダー男性がいなかったため、研究結果にはシスジェンダーのゲイ・バイセクシュアル男性の視点が含まれていない。ゲイ・バイセクシュアル男性の視点を含めることで、性教育における経験をより包括的に検討することや、セクシュアリティのあり方による相違点について検討することが可能になる。

本研究の調査協力者たちの多くは文部科学省による通知²⁵⁾や教職員用周知資料²⁶⁾が発出される前に性教育を受けていた。通知と教職員用周知資料の発出を機に、授業で性の多様性を扱う学校は少しずつ増えつつあり、現在は人権教育や性教育の場で肯定的な情報が提供されている可能性を考慮する必要がある。しかし、従来から性教育で異性愛のみを取り扱うこととする根拠とされてきた「異性への関心」についての記述が新学習指導要領に引き継がれ、性教育が全体にわたり異性愛を前提にしているという現状が今も課題として指摘されている以上、性教育では依然として性的マイノリティの若者のニーズや経験に関連した情報や包摂性が不足していると考えられた。性的マイノリティの若者による「性の多様性」に関する授業や新学習指導要領に基づいた性教育の受け止め方については引き続き調査が必要である。

謝辞

本研究を実施するにあたり、インタビューにご協力くださった9名の皆様に心より感謝申し上げます。また、この調査の実施に際し、お力を貸してくださった自助グループAの代表の方に厚くお礼を申し上げます。なお、本研究は、岡山大学大学院教育学研究科修士課程の修士論文の一部である。

文献

- 1) 東京都教育委員会. 性教育の手引. 2019 [last access 2020 Nov 25]. https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/content/files/about/text_kiso.pdf.
- 2) 文部科学省. 小学校学習指導要領解説 体育編. 東京: 東洋館出版社; 2008. p56-57.
- 3) 文部科学省. 中学校学習指導要領解説 保健体育編. 京都: 東山書房; 2008. p148, 159.
- 4) 井上輝子, 江原由美子, 加納実紀代, 上野千鶴子, 大沢真理. 岩波女性学辞典. 東京: 岩波書店; 2002. p29.
- 5) 渡辺大輔. 「性の多様性」をめぐる教育・学習と性的マイノリティ支援のあり方. 日本教育政策学会年報. 2017; 24: 56-65.
- 6) 日高康晴. ゲイ・バイセクシュアル男性の健康レポート 2015. 2015 [last access 2020 Nov 25]. https://www.health-issue.jp/Health_Report_2015.pdf.
- 7) 一般財団法人日本児童教育振興財団内 日本性教育協会. 「若者の性」白書 第8回青少年の性行動全国調査報告. 東京: 小学館; 2019. p93-94.
- 8) Eleanor Formby. Sex and relationships education, sexual health, and lesbian, gay and bisexual sexual cultures: Views from young people. Sex Education. 2011;11(3):255-266.
- 9) L. Kris Gowen, Nichole Winges-Yanez. Lesbian, Gay, Bisexual, Transgender, Queer, and Questioning Youths' perspectives of inclusive school-based sexuality education. J. Sex Res. 2014;51(7):788-800.

- 10) Michelle L. Estes. “If There’s One Benefit, You’re not Going to Get Pregnant” : the Sexual Miseducation of Gay , Lesbian , and Bisexual Individuals. *Sex Roles*. 2017;77:615-627.
- 11) Joseph M. Currin, Randolph D. Hubach, Julie M. Croff. Sex-Ed without the Stigma: What Gay and Bisexual Men Would like Offered in School Based Sex Education. *J. Homosex*. 2020;67(13):1779-1797.
- 12) Meg D. Bishop, Allen B. Mallory, McKenna Gessner, David M. Frost, Stephen T. Russell. School-based Sexuality Education Experiences across Three Generations of Sexual Minority People. *J. Sex Res*. 2020. DOI: 10.1080/00224499.2020.1767024.
- 13) Shereen C. Naser, Katherine Clonan-Roy, Kimberly A. Fuller, Elizabeth A. Goncy, Nicole Wolf. Exploring the experiences and responses of LGBTQ+ adolescents to school-based sexuality education. *Psychol. Sch*. 2020. DOI:10.1002/pits.22471.
- 14) 岩田歩子, 野崎章子, 館祥平. セクシュアルマイノリティの生きづらさと性教育に対するニーズ調査. *日本性科学会雑誌*. 2017 ; 35(1) : 37-44.
- 15) 杉山貴士. 性的違和を抱える高校生の自己形成過程—学校文化の持つジェンダー規範・同性愛嫌悪再生産の視点から—. *技術マネジメント研究*. 2006 ; 5 : 67-79.
- 16) プラウド岡山. 主に岡山県内の性的マイノリティを対象とした学校生活に関するアンケート調査報告書. 2016 [last access 2020 Dec 27]. <http://www.okayama-tbox.jp/kyoudou/pages/12079>.
- 17) 性的指向および性自認等により困難を抱えている当事者等に対する法整備のための全国連合会. 性的指向および性自認を理由とするわたしたちが社会で直面する困難のリスト (第3版) . 2019 [last access 2020 Dec 27] . [http://lgbtetc.jp/wp/wp-content/uploads/2019/03/困難リスト第3版\(20190304\).pdf](http://lgbtetc.jp/wp/wp-content/uploads/2019/03/困難リスト第3版(20190304).pdf).
- 18) 世界性の健康学会. 性の権利宣言 (公式邦訳版) . 2014 [last access 2021 Jan 5] . <https://worldsexualhealth.net/wp-content/uploads/2014/10/DSR-Japanese.pdf>.
- 19) 加藤秀一. はじめてのジェンダー論. 東京: 有斐閣; 2017. p17.
- 20) 佐藤郁哉. 質的データ分析法 原理・方法・実践. 東京: 新曜社; 2008.
- 21) ユネスコ. 国際セクシュアリティ教育ガイダンス【改訂版】—科学的根拠に基づいたアプローチ—. 東京: 明石書店; 2020. p4, 56-61.
- 22) 日高康晴, 市川誠一, 木原正博. ゲイ・バイセクシュアル男性の HIV 感染リスク行動と精神的健康およびライフイベントに関する研究. *日本エイズ学会誌*. 2004 ; 6(3) : 165-173.
- 23) 日高康晴. ゲイ・バイセクシュアル男性の異性愛者の役割葛藤と精神的健康に関する研究. *思春期学*. 2000 ; 18(3) : 264-272.
- 24) キース・ヴィンセント, 風間孝, 河口和也. *ゲイ・スタディーズ*. 東京: 青土社; 1997. p 90-95.
- 25) 文部科学省. 性同一性障害に係る児童生徒に対するきめ細かな対応の実施等について. 2015 [last access 2021 Jan 5] . https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/27/04/1357468.htm.
- 26) 文部科学省. 性同一性障害や性的指向・性自認に係る, 児童生徒に対するきめ細かな対応等の実施について (教職員向け) . 2016 [last access 2021 Jan 5] . https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/28/04/_icsFicsF/afiedfile/2016/04/01/1369211_01.pdf.
- 27) 文部科学省. 小学校学習指導要領 (平成 29 年度告示) 解説 体育編. 東京: 東洋館出版社; 2018. p108-109.
- 28) 文部科学省. 中学校学習指導要領 (平成 29 年度告示) 解説 保健体育編. 東京: 東山書房; 2019. p217, 227.
- 29) 文部科学省. 学校教育法施行規則の一部を改正する省令案並びに幼稚園教育要領案, 小学校学習指導要領案及び中学校学習指導要領案に対する意見公募手続き (パブリックコメント) に寄せられた御意見等について. 2017 [last access 2020 Dec 28] . https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryo/_icsFiles/afiedfile/2017/08/09/1387466_10_1.pdf.

- 30) いのちのレスpekt。ホワイトリボン・キャンペーン. LGBT の学校生活に関する実態調査 (2013) 結果報告書. 2014 [last access 2021 Jan 4] .<http://endomameta.com/schoolreport.pdf>.

図・表

表 1

インタビュー 協力者	年齢	自認する セクシュアリティ (※1)	自認した時期	性教育を受けた 校種 (※2)	学校在籍時に セクシュアリティ を知っていた相手
A	20 代前半	レズビアン	中学 2 年生	小・中・高	幼馴染の友達
B	20 代後半	FtM	中学生～成人後	小・中・高	なし
C	20 代後半	トランスジェンダー	幼児期～高校生	小・中・高	なし
D	20 代前半	レズビアン	中学生	高校	一部の友達
E	20 代後半	トランスジェンダー のバイセクシュアル	幼児期および 大学生	小・中・高	なし
F	20 代後半	FtM	小学校入学前～ 中学生	小・中・高	親，養護教諭， 一部の教員と友達
G	20 代前半	レズビアンだと思う	高校 3 年生～ 大学 1 年生	中・高	なし
H	20 代前半	シスジェンダーの レズビアン	高校 3 年生～ 大学 1 年生	小・中・高	なし
I	20 代前半	レズビアン寄りの バイセクシュアル	20 歳前後	中・高	なし

表 2

カテゴリー	サブカテゴリー	代表的な語り
		なんかやっぱ、同性愛っていうフレーズが出てこなかったから、性教育とかで。からほぼ学校では何も学んでないと思う、それについては。なんか別に、その、自分のセクシュアリティに関する情報を、学校の授業からもらったことはない、情報として。(Aさん)
	自分につながるセクシュアリティや性の健康が扱われない	んー学べなかったこと…。そうですね…。まず、性感染症のことだと、女性同士のことですね。これがついていうことよりも、もう何にも情報が無い、だからその、女性同士のセックスでの性感染症のことについて全く話がなかったの、それは学べなかったですね。(Dさん)
1. 異性愛を前提にした性教育を受ける		(授業で性の多様性や性的マイノリティについては) やってないですね。なんか全部こう、異性愛前提というか。何だろうなんか、いずれ結婚するでしょみたいな。高校の先生とかも、高校生だと数年後に早くて結婚する人いるじゃないですか。だからやっぱり、なんかこう、一部の子たちは結婚して子どもを産むかもしれないよみたいな。という話はあったんですけど。でも全然そういう、LGBTっていうものがあるとか、マイノリティなことについて学んだ記憶はないですね。(Iさん)
	自分には関係ないと捉える	異性への関心って言われた時点でもう、もう明後日の話。自分には関係ないとか、うーん。少なくとも自分に向けては言われてないけど、とは思ったし、そうね。…(中略)…男と何か性交渉するとかっていうのが全く無かったから自分の中で。別に、男女で起こる病気の話とかされても、絶対関係ねえしって。そこもまあ関係ないと思ってたし。出産とか絶対しないと思ったから、…(中略)…結婚も今でさえ、今だったらまあ、パートナー制度とか、婚約と同等じゃないけど、ある。その当時無かったから、男とはしないなとか。あんま今思うとどれに関しても本当に、同じように自分にとって何のメリットもない関係もない話をただ、その授業という枠組みの中で座らされて聞かされてただけっていう。そんな感じ。特に本当に、うん、何にも感じなかったな。本当は聞いとかなないといけなかったぞと思ったけど。(Fさん)
	自助努力の必要性	なんか、なんだろう。大切なことは全部ネットで調べれるよっていうのをまず学校の性教育は教えてくれたって感じかな。(Fさん)
		けど、まあその、男女間以外のことについては、無いものというか、そもそも考えるきっかけすら無かった。から、自分のことも全然気づけなかったし、ていうのがあるから、その時多少でも言葉を知ってたなら、もっと知りたいもって教えてほしいっていうふうと思ってたかなあと思うけど。もう当時は、ゼロというかもスタート地点にすら立っていないような、その辺の情報が。全くないっていう状態だったから、こういうこと知りたいと思うきっかけすら無かったかなあっていうのは思う。(Bさん)
2. 異性愛が前提であることへの疑問と批判を持つ	異性愛規範の発見	やっぱりこの辺でもあるけど、異性間のことしか触れられない。で、今だったらわかるけどLGBTの人については全く知る機会がないなっていう。だからこそ自分この年まで自分のことわからなかったんだけど。まあそうだな、男女間のことしかやらないんだなっていうのと、あと何か、結婚とか妊娠出産っていうルートが当たり前っていうのが前提なんだなっていう、のは思ってた。(Bさん)
	異性愛に包摂されることへの抵抗	(どの内容も異性愛が前提であることは) やっぱり印象にはすごい残ってるんですよ。でそれは印象に残ったっていうのがまあ、なんだろう、ほぼ反発心というか。っていうふうになっていて。(Cさん)
3. 異性愛が前提であることを受け入れる	異性愛に基づいた物事の捉え方	同性間も一切出てきてないです。なんか男女、異性愛が当然っていう感じで。全然疑問を抱いたことがなかったですから。そう。っていう感じで教えられてました。(Hさん)
	異性愛を標準として受け入れる	あまりにこう、一般常識というか、ありきたりなことを言われたら、まあそういうもんなんだなあみたいな感じで、聞いてた感じですね。(Eさん)
		同性は入っていないやなあっていう引っ掛かりはあったけど、特にそれで不安になったりとか、落ち込んだりはなかった。もう、そう割り切った。それはそうかみたいな感じで。それでダメージも受けなかったし。うん、全然。(Aさん)

表 2 (続き)

カテゴリー	サブカテゴリー	代表的な語り
4. 意図せぬ カミング アウトを 迫られる	望まないカミングアウトの可能性を察知する	あとこれが、めんどくせえことになるのやだなって思ったのは、これでなんか、その私が同性愛者だって先生にカミングアウトしてるようなもんじゃん。そしてそれで何もなければいいけど。なんか、あの子同性愛者だから、なんかそのカウンセリングとか（を勧められそう）、わかる？（Aさん）
	異性愛に当てはまらない表現の模索	自分とも男の人がそばにいるっていう未来はもう考えてなくて。だから、そうね。うん、今つきあってる彼女と過ごしていくっていう考えで書いていったら、いろいろ結婚とか出産とかが難しかったから、詳しく書く欄に、なんか書いた。日本では結婚は無理だから、同性婚は無理だからみたいなの。（Aさん）
	カミングアウトの回避を試みる	まあまず困った、というか焦った。どうしよう、どう、何をどう書いたらいいんだろうって。自分のことそのまんま書いたらね、自分はレズビアンですって言うてるようなもんになっちゃうから、それは避けたかった。だから自分のことは書けない、じゃそこからどうしよう何を書こうというのはすごい考えたな。でもね、あんまり書けなかったの。書けないから。自分には結婚というのが無いって思ってたから。当時の私は、もう結婚するのは男女がするものだと思ってたので、もう書けなかったですね。でも書かなきゃいけないじゃないですか、だってテストだから。（Dさん）
5. 将来の自 分の姿が 想像つか ない	ロールモデルが見つからない	自分事じゃなかったから、恋愛も結婚も。…（中略）…自分が、そこが、見えないから、どうなるんかなあっていう。わかんないなっていう感じだったかなあ。そりゃ仕事はしてるだろうけど、まあ家庭を持つとかっていうことは考えられないし。（Bさん） まあなんか一人でいろいろ仕事して暮らしていくんだろうなあみたいな感じ。（Cさん）
	多数派のロールモデルを参考にする	想像したことはありますけれども。でもなんか、何となく想像できるじゃないですか。周囲の大人とかを見といたら、なんか、一般的にこういう考えが多数派なんだろうなとか。こういうふうに振る舞うのが一般的に考えられる男性なのかとか。（Eさん）
	将来の自分が奪われる	なんか、いろんな未来が自分の中で想像できてたけど、その事実（結婚は男女間のみ）を教えられたことによって、道は閉ざされたわけじゃないけど閉ざされた気になったし。…（中略）…逆になんか、全部閉ざされるみたいな。そういう感じでした。そういう気持ちになった。（Fさん）
6. 周囲とは 違う存在 であることを自覚 する	周りとの違いに気づく	ああそうか周りの皆、今この教室にいる周りの皆はこの先大人になったら異性と恋愛したり結婚したり子ども産んで育てたりするんだって、でも自分だけ違うんだ、ああほんまかいなって。なんかね、住んでる世界の違いを感じました。…（中略）…ああ思い出した。なんかね、皆が遠ざかって見える感じ、明らかに距離が生まれた瞬間でした。その、異性を好きになれる人と、なれない自分っていう。（Dさん）
	少数派に自分を位置づける	ただただ王道があって自分がそこから外れてしまったっていう。のを昔は思ってたから。王道じゃなくて支流もあって、そこに属してる人もいるんだよ、自分はそこのグループにいるんだよっていう。（Bさん）
	自分を肯定的に受け止められない	私がLGBTとかを知って、もしかしたら自分もそうなのかもしれないっていう風に思った時、当時もすごい悩んで。やっぱり何で悩んだのかって言うと、異性愛が前提のこの社会っていうか、中学校高校も全部学校では異性愛が前提だから、それ以外はダメなんだみたいな。のをこう、無意識に感じてしまってた。でそれ、そこから外れてしまってるんだ自分はっていうのをわかったときになんか、外れた自分はいけないんだみたいな。風に思ってしまったんですね。（Iさん）
7. 性的マイ ノリティ について 学ぶ	受容的な雰囲気をつくる	皆なんか結構好意的っていうか、理解してくれるんだろうなぐらいの感覚。まあこういう人たちもいるよねって感じの受け取り方だとは思ってたんですけど。あからさまに差別とかいじめとかはなくて。（Hさん） なんかここまでこの、馬鹿にするような態度とか発言とかなくて。…（中略）…だからそういう変、変というかこう、まあ嘲る感じの態度はなくて。こういう人もいますよ中にはとか多分そういうニュアンスだった気がします。まあただその、マイノリティっていう認識は皆の中にはあって。へーそういう人もいるんだ私は違うけどみたいな雰囲気だったような気がします。（Gさん）

カテゴリー	サブカテゴリー	代表的な語り
(前頁の 続き) 7. 性的マイ ノリティ について 学ぶ	エイズの話 題において ゲイが登場 する	性感染症は高校の保健の授業で習ったな。どんなことを学んだか。あの、性感染症の種類とか。えっとなんだろう、(エイズは)いわゆるゲイになる人が多いよみたいなことも聞きました。(Cさん) やっぱ、その、エイズの話でどうしても男性同士の行為がすごい言われる、話が出た時に、周りがざわっとするんよ、それがすげえ嫌だったなんか。めんどくせえなこいつらと思って。そんなにざわっとするか？みたいな感じで。(Aさん)
	性的マイノ リティとみ なされるこ とへの恐れ	(高校3年生でLGBTについての講話を聞いた当時,)自分がまだレズビアンってちゃんと自認してなくて。なんかその(同級生の)女の子のことを好きかもしれないぐらいの感じで本当にかもしれないっていう。時期で、だったんですけど。ちょっと、あれ、怖いみたいな。ばれちゃうかもみたいな。一番最初にこの、今日の講話これですって言われたときに、大丈夫かなって思いながら話を聞いてたというのがあるんです。…(中略)…あの、なんか本当に親友だったので距離が近いんですけど女子って。近すぎたら疑われちゃうんじゃないかみたいなほうが怖くて。その子にもバレるのも嫌だったし、その周りの友達にも「こいつはなんかこの子のこと好きだからこうしてるんだ」みたいな感じで見られるのが嫌で。だから逆に、このLGBTの話がされたときに、女性同士でも大丈夫みたいな話をされると、えっお前そういう感じなのかよみたいな。なるじゃないですか。多分ならないと思うんですけどほとんどの異性愛者は。なんか自分がそういう意識してしまっ、怖かったってイメージですね。(Hさん) んーその(LGBTについての)調べ学習通して思ったことなんですけど、こう、そういう人たちが世の中には存在するっていうのを知って、もし自分がそのLGBTQに当てはまったら周りの人からどう思われるんだろうとか、こう周りの評価がちょっと気になって。ちょっと怖くなりました。なんかちょっと、この人は普通じゃない、異質だみたいな。こう扱いを受けるとか、自分の他、全然関係ない行動が全部こう、何ていうか、マイノリティだからこういうことをするんだみたいな、全然関係ない、無関係なこう因果関係を勝手に作られて自分の行動を評価されるんじゃないか。行動が評価されるんじゃないかっていうこうちょっと、怯えというか。多分その当時も私がLGBTQに偏見があったと思うんですよね。(Gさん)

図・表の説明（説明をまとめて記載する）

表 1 調査協力者の基本的属性

※1 セクシュアリティの表記については、本人の表現に基づいて表記している。

※2 調査協力者には、性教育を受けたことを覚えている校種を挙げてもらった。そのため、性教育を受けている（または、受けているはずだ）が記憶に残っていないものについては記載していない。

表 2 逐語録の分析結果

英語抄録（500word 以内）

The study aimed to clarify the experiences of sexual minorities concerning sex education at school, scrutinize how the assumption that everyone is heterosexual affects sexual minorities, and examine the challenges faced by heterosexual-based sex education. Based on the interview survey of nine sexual minority parties, their experiences were organized into seven types: “receiving sex education based on heterosexuality,” “skepticism and criticism of heterosexism,” “acceptance and following of heterosexism,” “facing unintended coming-out,” “vague image of oneself in the future,”

“awareness of belonging to a minority” and “learning about sexual minorities.” It was suggested that sexual minorities face tremendous difficulties where they have to deal with the various difficulties that arise when they receive sex education through trial and error, gather information necessary for themselves as sexual minorities in places and through opportunities other than school education, and learn about sex by self-study. The realization of inclusive sex education that takes the existence of learners of various sexualities into account is warranted.

利益相反の有無

本研究に関して、筆頭著者および共著者に開示すべき利益相反はありません。